

第 25 回 練馬光が丘病院 運営連絡協議会 議事録

日時：令和 6 年 11 月 19 日（火）13 時 30 分～15 時 00 分

会場：練馬光が丘病院 2 階講堂

出席者：高原委員、関委員、外山委員、酒井委員、池尻委員、しもだ委員、古賀委員、富田委員、内田委員、永井管理者、平澤事務部長

出席者（Zoom）：今井委員、佐藤委員、伊澤委員

議事

平澤事務部長より、前回協議会でのご意見を受け、資料を変更した旨の説明があった。
（統計データが月別のものと年度別のものが混在していたため、年度別に統一した）

永井管理者より、議長交代に伴う挨拶があった。

事務部、田中次長より資料①～⑩および補足資料について説明があった。

永井管理者より、がん登録症例の状況について説明があった。

地域連携室 工藤室長より、資料⑪について説明があった。

総務課 山口課長より、駐輪場の増設、駅構内案内板の設置、駐車場出入口カーブミラー設置について説明があった。

質疑応答

（委員）差し替え前の資料を見たが、外来患者数が減っている月がある。在宅医療の増加の影響など、原因を分析されているようなら聞きたい。新患の動きも知りたい。

（病院）一般的に総合病院は外来患者数を減らし入院患者数を増やすようにしているが、コロナ以降に外来が伸び悩んでいるのも事実である。

（委員）クリニックとの住み分けは関係があるか。

（病院）仰る通り、クリニックで手に負えない患者を当院が受け入れるべきと考えている。紹介患者をさらに受け入れていきたい。

（委員）逆紹介率が少し下がってきているがどのような経緯か。

（病院）残念ではあるが、複雑な病態を持った超高齢者などを受けてくれる施設が限られてきている状況もある。

(委員) (前回は) 医師の働き方改革に伴い総合診療の体制に課題が残るとのことだったが、下半期の状況は如何か。

(病院) 多くの事情により、総合診療科が受けられる入院患者数は現在のところ医師 1 名あたり 6~8 名程度となる。総合診療が受けきれない分を他科が受けるのは難しい。総合診療医の確保が重要と考えるが専門医志向が強くどこの病院も充足しているわけではない。医師には専門領域以外に裾野を広げてもらうよう伝えている。

(委員) 人件費、物価高騰によりどこも経営が苦しいと聞くが、何か対策があるか。

(病院) 診療報酬改定に物価高への配慮はされておらず、経営は非常に厳しい。各診療科が補い合って病床利用率を高めることと、入院の回転率を高めて退院の際には丁寧に説明するといったことが病院経営上は有効と考えるが実際その通りはいかない。診療材料も値上がりしている。コロナの補助金がなくなり経営は頭が痛い、できる限りのことをきちんとやっていくつもりである。

(委員) 医療連携について考えを聞きたい。

(病院) 国もネットワークを推進しようとしているが各医療機関の都合もあり普及はこれからである。個人情報の包括同意が可能になり、今後は使いやすくなっていくと思われる。

(委員) 駐輪場を増やしていただきありがたい。資料⑧の分娩に関連するが、分娩された方の中で産後ケアを利用する人はどのくらいいるのか。

(病院) 昨年度は 80 件、今年度に関してはすでに 60 件の受入があった。

(委員) 産後ケアは病院で分娩していない人も受け入れているのか。

(病院) 受け入れている。

(委員) 医療型短期入所事業は、年齢制限を設けていると思われるが、小児以外へも拡充をお願いしたい。

(病院) 小さい頃から当院で診ている方は 15 歳を超えても対象となっている場合もある。成人に関しては今後の課題とさせていただきたい。

(病院) なお、分娩に関し当院では幸いなところ件数が増加しているが、件数が増えれば助産師看護師の数が足りなくなり苦しくもなる。今後も人員の確保が課題である。

(委員) 医師働き方改革が 4 月から始まっている。救急医療の診療体制は ER 医師 2 名、各科当直医師 1 名、オンコール医師 1 名とあるが、当直許可をとっているか、または別の方法によるのか。

(病院) 小児・産科、外科等は当直でやっている。緊急対応などの場合の代休がなかなかとれないとは聞いている。

(委員) 小児の救急医療体制については資料があるが、高齢者の救急医療体制も、高齢化に伴い地域医療体制の中で問題にされている。救急搬送に高齢者がどれくらい占めているか、入院率はどのくらいか、連携はどうか、将来的な点も含めて伺いたい。

(病院) 高齢者の救急搬送に関しては非常に増加しており、できるだけ受けようとしている。今のところ救急の入院率は 16%ほどであり比較的低い。応需制限で断る場合もある。下り搬送に関しては今後件数を増やしていきたいが、救急車の用意、救命士や看護師の同乗などが必要となり、かなりの負担となる。当直医師の負担を下げするため、医師以外の各人員をできるだけ活用していきたい。また診療看護師、特定ケア看護師の活用により医師の負担軽減を進めたい。

(委員) 地域性に関し、光が丘地区からの来院が全体の 6 割を超えていることが、練馬区全域の中核的病院として貴院が果たすべき役割との関係で気になっており、その点の意見を聞きたい。また搬送転院の状況なども別な機会にもう少し詳しい資料がほしい。

(病院) 病院としては紹介を受けたからにはできるだけ受けたい。光が丘だから、都内だからということではなく、期待されて要請されていると考える。受けてほしい要望が具体的にあれば聞きたい。

(委員) 具体的な要望はないが、紹介以外にも、救急搬送の場合の入院に関する数字や、専門的な医療に対応した病院が区内にどのくらいあるか、貴院が行っている専門的な医療についての入院患者の分布、などの分析資料を追加してほしい。

(病院) 循環器センターは、都のネットワーク経由でほぼすべて受けている。それ以外にはがん診療、呼吸器など。来ている地域については次回に資料を示したい。

(委員) 病院の救急車の活用方法は？

(病院) 下り搬送、転院などが挙げられる。同乗者が必要であり、それほど多くはないとは聞いている。

(委員) ハード的なインフラは整っているが人的なところが足りないということになるか。

(病院) 手一杯頑張っているというところをご理解いただきたい。

次回第 26 回は 2025 年 5 月に開催予定とし、閉会とした。

以上